

近藤隼斗

国士館大学 2年生

(こんどう はやと)
令和元年度全国高等学校総合体育大会柔道競技大会に佐賀県代表として出場。男子個人60kg級で優勝し2連覇を達成した。
昨年11月に開催されたグランドスラム・バクー2021では、国際大会初出場にして堂々の3位。今後さらなる活躍が期待される。

新春対談

スポーツが持つチカラ

柔道人生のはじまり

あけましておめでとうございます。昨年の武雄市は長引くコロナ禍に加え、8月には豪雨災害が起るなど、今こそ踏ん張りどころだと感じる出来事に直面しました。一方、東京ではオリンピックが開催され、日本を背負って戦うアスリートの姿に多くの人が感動を覚えたのではないでしょうか。今回は、高校生の時にインターハイ2連覇、今では世界を舞台に活躍する近藤選手に「スポーツが持つチカラ」をテーマにお話を伺いたいと思います。まずは、近藤選手が柔道を始めたきっかけを教えてください。

それでも、ここまで続けてこられた一番の理由は何だと思いますか？

柔道が「好き」という気持ちだと思います。その気持ちがあるからこそ、負けた悔しさを次の試合に臨む原動力にできています。』

スポーツは健康管理はもちろんのこと、精神面も結果に繋がる大事な要素ですよね。

そんな見えない努力が結果に現れたのが、11月に開催された国際大会ですね。

初出場で3位という好成績を収められました。表彰台に上がったときどんな気持ちでしたか？

皆さんの応援のおかげで3位に入ることができました。

でも正直、優勝を目指していたので嬉しさよりも悔しさのほうが大きかったです。自分が満足いく結果ではありませんでしたが、日本代表として出場できることは大きな糧となりました。

向上心を持つて向き合っていることが素晴らしいですね。勝ち続けるために相当な努力をしてきたと思思います。「努力」という言葉は好きですか？

好きです。上を目指すためには努力は当たり前だと思っています。努力しないと勝てないのは当たり前。ただ努力をするんじゃないくて、何のために努力するのかを考えることを心がけていますね。』

自分らしい柔道を

そうやって、今までの経験を実力に繋げていくのがアスリートの強さですね。

近藤選手は高校生のときはインターハイ2連覇などと輝かしい成績を残しています。

辛かったことはありましたか？

次の試合も勝たなきゃいけないというプレッシャーから周りの目を気にしそぎたことがありました。結果が残せなくなつてから、自分らしい柔道ができるいいことに気づいたんです。それからは自分のことを第一に考えて試合に臨んでいます。』

「努力は当たり前」。日頃から自己鍛錬に励んでいるからこそ、その言葉が自然に出てくるんですね。さて、今回のテーマは「スポーツが持つチカラ」。近藤選手が思う「スポーツが持つチカラ」とは。

スポーツをやっている、やっていないに関係なく、世界中の人に元気と感動を与えることだと思います。

たしかに、私もスポーツから元気や感動をもらっています。近藤選手はもはや見ている人に与える立場になつていると思いますが、どんな選手を目指していますか？

人間性が出る競技が武道だと思っています。勝ち負けに限らず相手を尊重する。それを見ている人に感じ取ってもらえるように芯をしっかりと選手になりたいです。

小松政

武雄市長



近藤隼斗